

地球温暖化対策計画書

1 指定地球温暖化対策事業者の概要

(1) 指定地球温暖化対策事業者及び特定テナント等事業者の氏名

指定地球温暖化対策事業者 又は特定テナント等事業者の別	氏名（法人にあつては名称）
指定地球温暖化対策事業者	日本ホテル株式会社

(2) 指定地球温暖化対策事業所の概要

事業所の名称		ホテルメトロポリタンエドモント							
事業所の所在地		東京都千代田区飯田橋3-10-8							
業種等	事業の業種	分類番号	M75	M_宿泊業_飲食サービス業	宿泊業				
		産業分類名	宿泊業						
	事業所の種類	主たる用途	宿泊						
		用途別内訳	建物の延べ面積 (熱供給事業所にあつては熱供給先面積)	前年度末	43,971.49	m ²	基準年度	43,971.49	m ²
			事務所	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			情報通信	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			放送局	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			商業	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			宿泊	前年度末	41,101.49	m ²	基準年度	41,101.49	m ²
			教育	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			医療	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			文化	前年度末		m ²	基準年度		m ²
			物流	前年度末		m ²	基準年度		m ²
駐車場	前年度末		2,870.00	m ²	基準年度	2,870.00	m ²		
工場その他上記以外	前年度末		m ²	基準年度		m ²			
事業の概要		宿泊・飲食・婚礼・宴会・その他							
敷地面積		6,780.00 m ²							

(3) 担当部署

計画の 担当部署	名 称	環境マネジメント室
	電 話 番 号 等	03-5954-1204
公表の 担当部署	名 称	環境マネジメント室
	電 話 番 号 等	03-5954-1204

(4) 地球温暖化対策計画書の公表方法

公表方法	ホームページで公表	アドレス：	
	窓 口 で 閲 覧	閲覧場所：	日本ホテル株式会社 環境マネジメント室
		所在地：	豊島区西池袋1-11-1メトロポリタンプラザビル13F
		閲覧可能時間	10:00～16:30
	冊 子	冊子名：	
		入手方法：	
そ の 他	アドレス：		

(5) 指定年度等

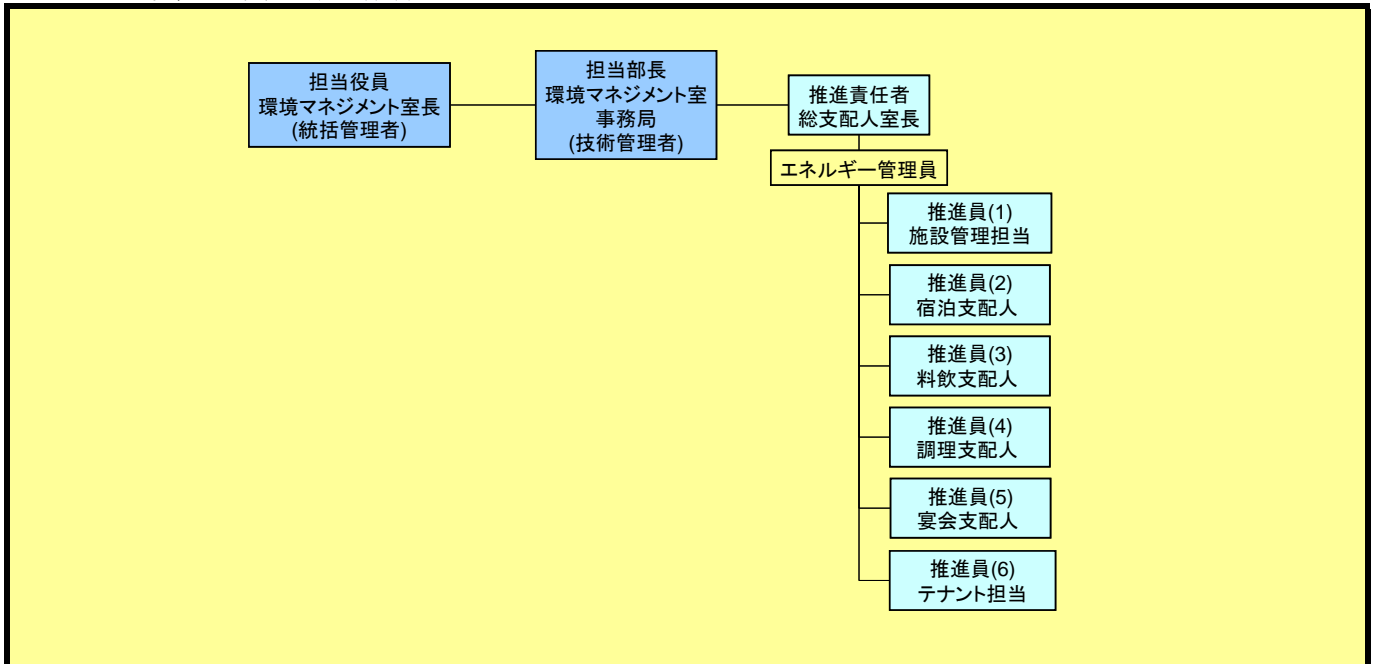
指定地球温暖化対策事業所	2009	年度	事業所の使用開始年月日	1985	年	6	月	30	日
特定地球温暖化対策事業所	2009	年度							

2 地球温暖化の対策の推進に関する基本方針

〔基本理念〕
日本ホテルグループは、環境問題を、あらゆる企業活動の最重要課題のひとつとして捉え、「地球環境にやさしい企業」を目指します。

〔基本方針〕
○私たちは、環境に配慮した快適なホスピタリティの提供を通じて、お客様や地域社会並びに国際社会に貢献します。
○私たちは、地球環境保護のために、資源の有効活用に積極的に取り組みます。
○私たちは、常に環境保護に関心を持ち、一人ひとりの環境保護意識の向上と実践に努めます。

3 地球温暖化の対策の推進体制



4 温室効果ガス排出量の削減目標（自動車に係るものを除く。）

(1) 現在の削減計画期間の削減目標

計画期間	2015 年度から 2019 年度まで				
削減目標	特定温室効果ガス	老朽化した空調機器の設備更新、館内照明のLED推進を行う。			
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	節水装置を導入及び調整していくとともに、各部署に積極的に節水活動を推進し、温室効果ガス排出量の低減を図る。			
削減義務の概要	基準排出量	8,050	t（二酸化炭素換算）/年	削減義務率の区分	I-1
	排出上限量（削減義務期間合計）	33,410	t（二酸化炭素換算）	平均削減義務率	16.99%

(2) 次の削減計画期間以降の削減目標

計画期間	2020 年度から 2024 年度まで				
削減目標	特定温室効果ガス	新館の熱源、空調機、ポンプ類の更新を順次行う。			
	特定温室効果ガス以外の温室効果ガス	引き続き、節水装置を導入及び調整していくとともに、各部署に積極的に節水活動を推進し、温室効果ガス排出量の低減を図る。			

5 温室効果ガス排出量（自動車に係るものを除く。）

(1) 温室効果ガス排出量の推移

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特定温室効果ガス (エネルギー起源CO ₂)		5,742	5,535			
その他ガス	非エネルギー起源 二酸化炭素 (CO ₂)					
	メタン (CH ₄)					
	一酸化二窒素 (N ₂ O)					
	ハイドロフルオロカーボン (HFC)					
	パーフルオロカーボン (PFC)					
	六ふっ化いおう (SF ₆)					
	三ふっ化窒素 (NF ₃)					
上水・下水		98	95			
合計		5,840	5,630			

(2) 建物の延べ面積当たりの特定温室効果ガス年度排出量の状況

単位：kg（二酸化炭素換算）/㎡・年

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
延べ面積当たり 特定温室効果ガス 年度排出量	130.6	125.9			

6 総量削減義務に係る状況（特定地球温暖化対策事業所に該当する場合のみ記載）

(1) 基準排出量の算定方法

<input checked="" type="radio"/> 過去の実績排出量の平均値	基準年度：（ 2004年度、2005年度、2006年度 ）
<input type="radio"/> 排出標準原単位を用いる方法	
<input type="radio"/> その他	算定方法：（ ）

(2) 基準排出量の変更

	前削減計画期間	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
変更年度						

(3) 削減義務率の区分

削減義務率の区分	I - 1
----------	-------

(4) 削減義務期間

2015 年度から 2019 年度まで

(5) 優良特定地球温暖化対策事業所の認定

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
特に優れた事業所への認定					
極めて優れた事業所への認定					

(6) 年度ごとの状況

単位：t（二酸化炭素換算）

		2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度	削減義務期間合計
決定及び予定の量	基準排出量 (A)	8,050	8,050	8,050	8,050	8,050	40,250
	削減義務率 (B)	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	17.00%	
	排出上限量 (C = ΣA - D)						33,410
	削減義務量 (D = Σ(A × B))						6,840
実績	特定温室効果ガス排出量 (E)	5,742	5,535				11,277
	排出削減量 (F = A - E)	2,308	2,515				4,823

(7) 前年度と比較したときの特定温室効果ガスの排出量に係る増減要因の分析

増減要因	<input checked="" type="checkbox"/> 削減対策	<input type="checkbox"/> 床面積の増減	<input type="checkbox"/> 用途変更
	<input type="checkbox"/> 設備の増減	<input type="checkbox"/> その他	
具体的な増減要因	・電気～照明器具のLED化、空調機等の高効率化、節電の取り組み等により電気使用量が減り温室効果ガスの排出量が減少した。		

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
		【特定温室効果ガス排出量の削減の計画及び実施の状況】			
1	120100	12_燃焼設備の管理	高効率ボイラーの導入	2010年	
2	110400	11_エネルギー使用量の管理	BEMS導入	2011年	
3	120500	12_熱搬送設備の運転管理	冷温水2次ポンプの変流量制御	2011年	
4	120100	12_燃焼設備の管理	熱源機の変流量制御	2011年	
5	130100	13_空気調和の管理	空調機の外気取入制御	2011年	
6	130100	13_空気調和の管理	機械室の換気及び空調のスケジュール運転	2011年	
7	130300	13_換気設備の運転管理	駐車場のCO制御	2011年	
8	130200	13_空気調和設備の効率管理	外調機の静圧制御	2011年	
9	150100	15_受変電設備の管理	コジェネ運転方法の見直し	2007年に実施済	
10	150200	15_照明設備の運用管理	照明設備の一部高効率化	2011年～	
11	130200	13_空気調和設備の効率管理	3F中宴会場系統空調機更新 2F中宴会厨房系統空調機更新	2013年	
12	120200	12_冷凍機の効率管理	水冷チラーの更新	2014年	
13	130200	13_空気調和設備の効率管理	客室北側空調機(ACU-GEN)・ 客室南側空調機(ACU-GES)更新	2013～2014年	
14	130200	13_空気調和設備の効率管理	B1F飲食店舗系統空調機更新 1Fホール系統空調機更新	2015年	
15	130200	13_空気調和設備の効率管理	2F大宴会場系統空調機更新	2015年	

7 温室効果ガス排出量の削減等の措置の計画及び実施状況（自動車に係るものを除く。）

対策 No	対策の区分		対策の名称	実施時期	備考
	区分 番号	区分名称			
16	130200	13_空気調和設備の効率管理	結婚式場系統空調機更新	2016年	
17	130200	13_空気調和設備の効率管理	B 1 F 中華飲食店舗系統空調機更新 B 1 F 中華飲食個室系統空調機更新	2016年	
18	130200	13_空気調和設備の効率管理	本館客室系統(AEX-GEN)全熱交換器INV化	2017年	
19					
20					
21					
22					
23					
	【その他ガス排出量の削減の計画及び実施の状況（その他ガス削減量を特定温室効果ガスの削減義務に充当する場合のみ記載）】				
51					
52					
53					
	【排出量取引の計画及び実施の状況】				
61					
62					
63					

8 事業者として実施した対策の内容及び対策実施状況に関する自己評価（自動車に係るものを除く。）

- 当社では、各ホテルから省エネ対策担当者を集め、月に一度省エネ対策についての定例会を行っている。その中で、各ホテルが行っている省エネ対策を発表し合い、各々の対策を社内全体に水平展開できるようにしている。その定例会に参加し、積極的に様々な省エネ対策を取入れ、温室効果ガス排出量の削減を行っている。
- BEMSを導入し、各セクションのエネルギー使用量を把握し、それを各セクションへ公開することで、各社員の省エネに対する意識の向上を図っていく。また設備運用上、過剰供給等によるエネルギー消費を発見しそれを抑える対策を行うことで、更なる温室効果ガス排出量の低減をする。